

国際日本学部 日本文化学科

教育研究上の目的

日本文化学科は、日本語の高度な運用能力、日本語や日本文化についての包括的な知見、さらには日本文化を世界的な視野のもとに位置づけることのできる国際的な教養を身につけた、多文化共生社会の担い手となる人間の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学科の教育研究上の目的等を踏まえ、国際日本学部日本文化学科では、学生が、

- (1) 日本語の構造や機能を理解し、その高度な運用能力を修得すること
 - (2) 伝統文化から現代文化までの多彩な日本文化を包括的に理解すること
 - (3) 国際的な教養を修得し、日本文化を世界的に位置づけられる広い視野を獲得すること
 - (4) 異文化を理解し、多文化共生社会を築いていける豊かな人間性を身につけること
- を、教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学科のカリキュラムにおいて、所定の卒業要件単位を修得した者は、次に掲げる能力や知識・教養を身につけていると判断され、学士(文学)の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
 - (1) 社会の変化に対応しながら問題を発見・解決することができる能力を身につけている。
 - (2) 情報の収集・分析・発信のための高度な日本語の運用能力を身につけている。
2. 国際的感性とコミュニケーション能力
 - (1) 外国語の基礎的な運用能力を身につけている。
 - (2) 日本文化をより広い視野のもとに位置づけることのできる国際的な教養と感性を身につけている。
 - (3) 日本文化を理解し適切に伝える異文化間コミュニケーション能力を身につけている。
 - (4) 多文化共生社会を築いていける豊かな人間性を身につけている。
3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
 - (1) 日本語および日本文化についての専門的知識を身につけている。
 - (2) 日本文化の担い手として、多文化共生社会に寄与できる専門的な知識と技能を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学科は、日本語の高度な運用能力と日本語・日本文化についての包括的な知見を修得するとともに、国際的な教養を身につけることができるように、以下のような学修・教育課程を編成し、教育・評価を行っています。

1. 教育課程の編成・実施
 - (1) 世界や日本の現状を知り、多様な視点から考察することができる素養を身につける学部教養科目
 - (2) さまざまな様態の日本文化について自らの力で学び研究していく能力を育成する、少人数教育による双方向型の演習・ゼミナール科目
 - (3) 日本語・日本文学・日本文化に関する専門的知識を領域や時代を横断して幅広く修得しつつ、文化事象を批判的に解釈・分析する力を身につけるための日本語学科目、日本文学科目、文化・表象科目
 - (4) 隣接領域の知識を深め、日本文化に関する知見を相対化するための日本文化発展科目
 - (5) 人間・社会・自然等にかかわる諸問題について広い視野を獲得する教養系科目

2. 教育の方法と評価

- (1)演習・ゼミナールでは、少人数・双方向型教育を徹底し、1年次に「FYS(ファースト・イヤー・セミナー)」と「文章表現演習」、2年次に「文献講読演習」、3年次に「日本語学・日本文学演習」と「ゼミナール」、4年次に「卒業研究」を配置することによって、学生が専門的知識を段階的に修得できるように指導し、自ら情報を収集・分析・発信する能力を育成します。
- (2)日本語・日本文化について幅広く学ぶ展開科目では、領域や時代を横断した多角的な学びが可能になるように履修指導を行い、また学生が積極的に学修に参加できるようアクティブ・ラーニングを実践します。
- (3)単位制度の実質化を図るため、成績評価の方法及び基準を明確化し、成績評価を厳格化しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学教育によって培う能力

- (1)日本語の構造や機能を理解し、それを高度に運用する能力
- (2)伝統文化から現代文化までの多彩な日本文化を包括的に理解する能力
- (3)国際的な教養を修得し、日本文化を世界的な視野のもとに位置づけられる能力
- (4)異文化を理解し、多文化共生社会を築いていける能力

2. 本学科の求める入学者

- (1)基礎的な学力を有し、日本語・日本文化についての学修に関心と意欲を持っている人
- (2)日本文化の継承・発展に貢献したいと思っている人
- (3)世界の中で日本文化が果たすべき役割について考えたいと思っている人

3. 高校までの能力に対する評価（選抜方法）

本学科では多様な入学試験を実施することにより、

- (1)高等学校までの学習を通じて大学での学びに必要な基礎学力を身につけた人
 - (2)日本語・日本文化について関心を持っている人
 - (3)日本文化の継承・発展に貢献したいと思っている人
 - (4)多文化共生社会を築いていきたいと考えている人
- を受け入れます。